

## ◆ これまでの支部活動(平成27年7月～12月)

7月	<p>〈2015恵迪夏祭り 初の女性寮長中川さんら現寮生も参加〉</p> <p>北国の短い夏を、ビールと寮歌で楽しむ、恒例の恵迪夏祭り(ビール会)が7月25日(土)正午からビヤホールライオン狸小路店2階ホールで開催、予科時代の大先輩から、初めて参加する現寮生まで総勢20名が名寮歌を放歌高唱しました。</p> <p>前月、HBCテレビで放送された戦後70年特集「恵迪寮寮歌に遺る戦争と自由」のDVDが放映される中、昨年も参加された最年長の能瀬誠夫君(S21)の挨拶と乾杯の音頭で開幕。今回は特別に初の女性寮長誕生を記念して中川智美委員長(H25)ら3人の現寮生を招待。参加者全員の自己紹介の後、大いに飲みかつ食べ、談論風発の歓談を繰り広げました。</p> <p>大いに意気が高揚したところで、大谷文昭組織幹事(S43)の司会で寮歌高唱となり、まずOBが口火を切り次々と歌い、これに負けまいと現寮生も平成24年寮歌「快速エアポート」や最新の「姫月に重ねて」等を放唱しました。</p> <p>高井宗宏特別顧問(S31)の締めの挨拶の後、最後に「都ぞ弥生」を齊唱し、また来年の再会を約束して散会しました。</p>
9月	<p>〈文化講演と寮歌の集い 2015ホームカミングデー協賛〉</p> <p>第4回北海道大学ホームカミングデーに協賛して26日(土)午後から、「文化講演と寮歌の集い」がクラーク会館大集会室で開かれ、OBや現寮生ら延べ100名近い参加者がありました。</p> <p>このうち、第一部の文化講演会では、北大における有島武郎研究の第一人者でもある神谷忠孝名誉教授(S33)が「有島武郎と北大・恵迪寮」のテーマで講演しました。恵迪寮舎監時代の日記や資料を基に当時の寮生がよく学習し談論風発の気概にみなぎっていたことなどを紹介。</p> <p>さらに、社会主義、自由思想に傾注する有島が農科大学を愛しながら官立大学の方針に反発、退職して作家として独立する一方、理想を貫こうと有島が父の遺した農場解放に向けて動き出す様を手紙などの資料を基に解説されました。</p> <p>第2部の寮歌の集いには、90歳に近い大先輩から10代の現寮生まで何んど70歳以上の年の差を超えて幅広い恵迪仲間が結集。谷口哲也君(S48)の音頭で「都ぞ弥生」を齊唱した後、氏平増之君(S38)や千川浩治君(S40)の指導でドイツ語版、ロシア語版、アイヌ語版の「都ぞ弥生」を熱唱しました。</p> <p>また、東京から駆けつけた須賀正太郎君(S28)も、2年かかりで語訳した中国語版を同年輩の仲間達と高唱していました。</p>
10月	<p>〈大盛況の開識社講演会〉 「一途一心の野球道」プロ野球審判技術員 山崎夏生氏</p> <p>第16回開識社講演会(主催・恵迪寮同窓会北海道支部)が、北大野球部出身で日本野球機構(NPB)審判技術指導員の山崎夏生氏(61)を講師に迎え、10月26日(水)夜、札幌市時計台ホールで開かれました。演題の「一途一心の野球道」が示すように、山崎氏は子どものころから野球少年で、新潟県立高田高校と北大時代に野球部で汗を流しました。文学部卒業後はスポーツ新聞社に勤務しましたが、野球への道を断ち切れず、コミッショナーに直談判し、北大からは初のNPB審判員に採用された熱い心を持つ男です。</p> <p>プロテクターなど防護用具に身を固めて登場した山崎講師は、いきなり「プレーボール！」と、臨場感あふれたパフォーマンスで講演開始。波乱万丈の野球人生をユーモアと情熱たっぷりに語ると、時計台ホールでの開識社では初めて150人を超える満員の聴衆も抱腹絶倒の連続でした。最後は、ここまでやってこられたのも、崇高な目的に向かって走り続けたという、北大で培った「ボーイズ・ビー・アンビシャス」のたまものと締めくくりました。</p> <p>なお、講演に参加できなかった同窓会員には、山崎氏の著書「プロ野球審判 ジャッジの舞台裏」(北海道新聞社刊・定価1339円)が若干あります。力強いパフォーマンスで同窓会特別価格(1,000円)でお分けします。恵迪寮同窓会事務局に連絡ください。熱弁を振るう山崎氏</p>



27恵迪夏祭り・中川寮長(右)ら現寮生も初参加



恵迪夏祭り記念写真



「有島武郎と北大恵迪寮」のテーマで講演する神谷名誉教授



老いも若きも肩組み合って寮歌の集い

